

事務事業	135	環境白書の作成と報告会の開催					
章	5	身近な環境に配慮した、地球にやさしいまち					
大項目	02	快適環境の保全と創出					
施策	01	環境施策の総合的展開と推進					
事業内容							
目的	環境基本計画の進捗状況を点検するとともに、環境保全の取り組みについて普及啓発を図っていきます。						
対象・手段	環境白書報告会を通して、環境行動指針の普及を図るとともに、環境基本計画の進行管理をします。環境白書報告会を開催し、区民等から広く意見をいただきます。						
成果(事業が意図する成果)							
環境基本計画の進行管理と環境行動指針の推進を合わせて行うことができ、一貫した環境政策の推進が図れます。							
事業成果指標							
指標名		定義			目標水準		
環境白書の作成		環境白書の作成			(毎) 年度に (1回) の水準達成		
環境白書報告会の開催		環境白書報告会の開催			(毎) 年度に (2回) の水準達成		
					() 年度に () の水準達成		
成果の達成状況							
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
事業成果指標	目標値 1	回	1.00	1.00	1.00	1.00	
	実績 1	回	1.00	1.00	1.00	1.00	
	= /	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
	目標値 2	回	1.00	1.00	1.00	2.00	
	実績 2	回	1.00	1.00	1.00	2.00	
	= /	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
	目標値 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業の実施内容							
平成18年度	後期の環境基本計画策定に向けて、「環境施策検討会」(ワークショップにあたる会議)を開催して環境基本計画の見直しを進めました。環境白書を作成し、「環境白書を読む会」(「環境施策検討会」のメンバーをパネリストとしたシンポジウムと、白書の報告会を兼ねた会)を開催しました。						
平成19年度	後期の環境基本計画策定に向けて、「環境施策検討会」(ワークショップにあたる会議)を開催して環境基本計画の見直しを行いました。環境白書を作成し、「環境白書を読む会」(「環境施策検討会」のメンバーをパネリストとしたシンポジウムと、白書の報告会を兼ねた会)を開催しました。併せて、後期の環境基本計画(改定)の内容説明をしました。						

部名称		環境清掃部		課名称		環境対策課	
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
トータルコスト	事業費	千円	516	300	473	1,990	
	人件費	千円	0	4,169	4,140	4,130	
	事務費	千円	0	0	0	0	
	減価償却費等	千円	0	0	0	0	
	総計 = + + +	千円	516	4,469	4,613	6,120	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	純計 = -	千円	516	4,469	4,613	6,120	
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
財源内訳	一般財源 = -	千円	516	4,469	4,613	6,090	
	特定財源		0	0	0	30	
	一般財源投入率 /	%	100.00	100.00	100.00	99.51	
職員	常勤職員	人	0.00	0.50	0.50	0.50	
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00	
事業に関する検討課題							
<p>区民・事業者・NPO等と連携、協働して環境基本計画の進行管理、見直しを行っていく必要があるため、開催回数や開催時間を考慮して、「環境白書を読む会」への参加者をさらに増やしていくことが課題です。</p>							
評価基準に基づく評価と理由 「3.2.1」の3段階評価です。	達成度	3	環境基本計画の進捗状況を把握するため、新宿区の施策や区民・事業者・NPOなどの取組みを環境白書としてとりまとめました。また、「環境白書を読む会」では、白書の報告とともに、平成19年度に改定した環境基本計画の説明をしました。				
	実施の成果	2	環境基本計画の目標達成状況を白書の中で明確にすることにより、課題を整理することができました。また、白書報告会の開催により、参加者との環境に関する種々の意見交換をすることができました。今後は、報告会の参加者数の増加が望まれます。				
	効率性	3	他の啓発冊子との整理・統合を図り、環境基本計画の進捗状況を点検するツールとしてより分かりやすくし、費用対効果の面からも向上しています。				
	行政の関与	3	区民・事業者・NPO等と連携、協働して、環境基本計画の進捗状況を把握する必要があるため、区の関与は欠かせません。				
	妥当性	3	環境基本計画の進捗状況を点検するとともに、環境保全の取組みについて普及啓発を図っていくために、環境白書の作成と報告会により区民等から広く意見を聞くことが必要です。				
	施策寄与度	3	環境施策を取り巻く状況の変化を受けて、19年度、環境基本計画を改定しており、PDCAサイクルが機能しています。環境施策の総合的展開と推進が効率的に行われており、施策の目的達成に大いに寄与しているといえます。				
総合評価	19年度の評価をBとしたのは、環境基本計画に掲げられた目標を達成するための環境白書を作成し、その進捗状況を公表し、「環境白書を読む会」を2回開催したからです。 (参加者33名) 17年度から19年度までの3年間についてもBと評価します。毎年度、環境白書を発行し、「環境白書を読む会」を開催して検証することにより(計4回、76名参加)、環境施策の着実な推進と見直しを図ることができました。						B 過年度評価
							18年度 B 17年度 B 16年度 B 15年度
改革方針							方向性
	<p>環境白書の無償頒布、ホームページ上での公開、区民・事業者等を交えた報告会の開催方法の改善などにより、環境基本計画の進捗状況を確認するとともに、環境施策をより広く公表していきます。 また、平成19年度に環境基本計画を改定しましたので、区民等へ新たな環境施策内容を広く周知していきます。 この事業は経常事業の「環境基本計画の推進」に引き継いで取り組んでいきます。</p>						2 手段改善